

# 令和元年度 第1回釧路市総合教育会議

日 時：令和元年7月23日（火）15：00～16：40

場 所：防災庁舎5階 災害対策本部室

構 成 員：蝦名市長、山口教育委員、松尾教育委員、種村教育委員、小出教育委員、岡部教育長

市側出席者：岡本総合政策部長、高玉学校教育部長、大山教育指導参事、川畑生涯学習部長、

大坪こども保健部長、

藤田都市経営課長、三富こども保健部次長、藤岡総務課長、北澤学校教育部次長、

松本総括指導主事、工藤生涯学習部次長、澤口生涯学習課長、

長濱都市経営課長補佐、小西都市経営課長補佐、大島総務課長補佐、

浜木学校教育課長補佐

関係資料：資料1 平成30年度釧路市総合教育会議意見交換会意見への対応等

資料2 切れ目のない教育を推進するためのロードマップ

## 1. 開会

## 2. 市長挨拶

蝦名市長）

- ・お忙しい中、お時間をいただき感謝を申し上げます。令和になって最初の総合教育会議ということでよろしく願います。
- ・総合教育会議は、義務として首長も入りながら進めているが、この街全体の教育ということでは義務教育だけではなく、家庭教育や私学、道立高校、専修学校、大学など、全体の教育力を高めていきたいというところで進めてきたところ。総合教育会議は、次の教育を育むにあたって重要な位置づけになっている。
- ・昨年度は、幼児教育を含めた意見交換を行い、いろいろな話を聞いてきた。市としてどのように取り組んでいくのか、私たちからの意見も出しながら進めていきたい。
- ・地域にとって、社会にとって、教育というのは最も重要な分野であると考えている。これから「まちひとしごと創生総合戦略」の第2期の策定に取り掛かるところであり、そういう意味でも本日の総合教育会議は実りあるものにしたい。

## 3. 議題

（1）平成30年度釧路市総合教育会議意見交換会のフォローアップについて

- ・資料1のうち①「児童館を学習の場にしてはどうかという意見」について、こども保健部長から説明
- 「学力向上の取り組み」について、教育指導参事から説明

【前回の意見交換会での意見概要】

放課後の学習習慣定着のためにも児童館を学習の場とすることはできないか。地域全体で子どもたちを育てるために、児童館が学力向上に一役買うことができるのではないか。検討いただきたい。

こども保健部長）

- ・児童館また児童センターは、児童福祉法に「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、または情操を豊かにすること」を目的とした児童厚生施設と定められている。
- ・小学校区に21館あり、18歳未満の児童が自由に遊ぶことのできる室内公園のような施設で、この

児童館児童センターの中で放課後児童健全育成事業、いわゆる学童保育を実施。釧路市では、放課後児童クラブと言っている。

- ・放課後児童クラブでは、遊びの活動拠点と生活の場としての機能による、児童の健全育成が求められており、活動の中では、宿題等を行う、学習の時間というのを設けている。
- ・児童館、放課後児童クラブは、宿題をやる時間の提供はしているが、それ以上は難しいと思っている。

・資料1のうち②「学力向上の取り組み」について、教育指導参事から説明

【前回の意見交換会での意見概要】

学力向上の取り組みは、急を要する課題だと考えている。どのような取り組みを進めていくべきなのか。

教育指導参事)

- ・学力向上の取り組みについて、現在取り組んでいる内容と今後の方向性について、説明する。
- ・授業づくり、環境づくり、習慣づくりの3つの視点については間違いないが、この3つのバランスが崩れると、学力は伸びないということが明らかになった。この3つの視点の沿った方策が本当に有効なのかという検証を進めていく必要があり、必要に応じて、来年度から見直しを図っていく。
- ・全国学テのみではなく、釧路市標準学力検査を活用して、子ども一人一人の成長を保障するという観点で成果を確かめることが必要だということも確認した。各学校に学年の経年変化をグラフで表し、右肩上がりであれば、学校としての責任を果たしていることになり、下がっているのであれば、学校として原因を分析し、改善策を講じることが必要になるという、極めてシンプルなわかりやすい指導をすることが必要。
- ・4月からの取り組み、1点目は校長会で同一集団を経年変化で見ることについて、説明し、全ての学校でグラフ化して要因を分析するよう指示。その分析から改善点が明確になることを期待している。
- ・2点目、教師の指導力向上が急務の課題であるため、センター講座に1人1講座を必ず参加することはもとより、学力向上セミナーについては、特に課題のある中学校の数学の担当教員には、全員参加するように指示。
- ・3点目、学力の経年変化を見ると、小学校から中学校への接続に課題があることから、7月に初めて小中連携研修会を全中学校校区で開催し、小中学校の教職員全員が、事業部会、生徒指導部会、特別支援教育部会など部会に分かれて協議。
- ・近々の取り組みとしては、全国学テの結果をよりわかりやすく、具体的な方策が示せるよう指導するとともに、市教委として公表したものを集約し、指導が必要な学校については、来年度に向けて改善を促したい。また、学校ごとの学校改善プランの様式も見直しを図っていきたい。
- ・今後の方向性について、まず1点目。教師の教員の指導力向上のために、道教委が作成した教員育成書を参考に学校職員人事評価制度を活用して、教員自らが研修計画を立て、達成状況評価を実施。
- ・2点目、今まで以上に成果を上げている学校の実践例の紹介と、それを周知する取り組みを進める。
- ・3点目、中学校の英語科においても課題があることから、道教委が実施する英検I B Aの実施と、その結果を受けた研修講座の充実。
- ・4点目、特に課題のある中学校対象とした放課後学習サポート事業、また、中学校への特別支援員の配置を実施するとともに、学力先進地への指導主事の派遣などを実施する予定で予算をお願いしているところ。

<以下、意見・質問等>

山口教育委員)

- ・意見交換会での、子どもたちの健全な成長を釧路市全体で育んでいかなくてはいけないという意見を

受けて、教育委員会だけじゃなくて、市役所の中の担当が非常に精力的に資料としてまとめたっていうのは非常によかった。これはゴールではなく、今後どういうふうに力を合わせていったらいいか考えるための資料だと受けとっている。

- ・児童館について、やはり制度上の限界があるというのはわかった。宿題をやる場はあるという説明だったが、児童館に勤めている方々に関わってくれっていうのは難しい。地域や町内などをお願いして、地域を絞って行う方法はないのかなと感じた。制度上いろんな課題はあるが、こんな方法から前に一歩進めるかもしれないなと検討をお願いしたい。
- ・学力向上の取組について、学力向上セミナーはすばらしい中身だが、一定程度いる、参加意識を持たない先生をどう引っ張り込むかっていうのが、大きな課題。その先生方が食いつくとしたらどんな方法があるんだということも一考する必要がある。
- ・去年、秋田県大館市の教育長の話聞いて、聞くよりも実際どうなっているかっていうのを目の当たりにしてくるっていうのもいいと思う。指導主事に実際に見てもらって、こういう風にやったら変わったと、子どもたちの姿もすばしかったというものを肌で感じて、それを現場の先生に還元していくというのがいい方法でないか。
- ・どこかの場面で、家庭、保護者にもこういう方法でやっていきますよっていう説明は必要と思うので、家庭にも、ここで話し合われた内容を知ってもらうための努力もしていただきたい。

#### 総合施策部長)

- ・この場での意見を広く家庭に周知するという事は、前回の意見交換会やこの場での意見を多くの方の目に触れる方法を検討したい。

#### こども保健部長)

- ・児童館の関係では、法的な部分もあるが、指導者について工夫が必要である。全児童館ではなくても、地域で、ボランティアでアドバイスできる方やその時間の設定などはこれからも検討できるかと思う。
- ・平成27年、児童館に平日の学習などについてアンケートした中では、時間の確保が難しいというか、学年によって学校から出てくる時間がばらばらになるので、設定する時間帯が難しい。地域の中でとか、モデル的に進めていける部分はあると思っている。

#### 山口教育委員)

- ・ノルマとして課すと、子どもにとって児童館に行っても勉強しなくてはいけないからってなっても困るし、その辺あたりのバランスのととり方、なかなか難しい。

#### 蝦名市長)

- ・寺子屋はどうなのか。

#### 山口教育委員)

- ・地域の方々の、鳥取地区の子どもたちを応援するため、先生方も一緒に頑張っていくという姿勢は本物で、寺子屋の活動内容も含めて評価に値する。
- ・今回米町にも広がった。押し売りではなく、米町の方のこの地域にもそういうものがあつたらいいという声があつて、鳥取地区のノウハウを勉強し、2館目ができた。そういうことからいけば、行政サイドからのノルマとして各地区で立ち上げてくれっていうのは、どうなのかなって気がするが地域から上がってきたものが、自然と広がっていくっていうのはすごくいいことではないか。

#### 蝦名市長)

- ・例えば1校がモデルじゃなく、初めから何ブロックに分けて広がっていくのが両方でできればいい。

- ・児童館21館の中でやろうとした場合は、制度や仕組みなどの大義名分があるが、児童館の活用の仕方の中で、数力所からやろうという決め事があると違う形ができる。

#### 山口教育委員)

- ・児童館の話題ばかりになるが、家庭学習はすごく大事だから、生活のリズムや生活習慣を含めて、家庭にリクエストすると、大部分の親は理解をして、子どもたちとの関わりの中で、家庭学習している。親が子育てにパワーを発揮しないような家庭では、親の生活の有り様の指導なんかも含めて、課題を抱えた子どもは、学校の手を離れたら、手を貸せるところっていうのが児童館しかない。そういう子どもたちに対して児童館ではなにかできないんだろうかって思うが、やっぱり制度上の限界もある。

#### こども保健部長)

- ・あるが、言っていることは十分わかる。

#### 教育長)

- ・児童館・児童センターというハードの意味は、18歳未満の子どもの遊び場。
- ・学力向上には、授業力の向上、小学校から中学校に移っていくときの一人一人の子どもたちに対する連続性の強化、そして、家庭学習を含めた、放課後の取り組みをどう強めていくかの3つが大事だ。釧路の児童クラブ、学童保育のソフトは学校でも、お寺の境内でも、どこでやってもいい。トータルで放課後子どもプランといって、子どもたちの放課後の学習サポートも含めて、やっていこうというのが今の日本の施策だから、児童館は遊び場だが、放課後児童クラブ、学童保育という中で、子どもたちの思いに沿った学習活動をできそうな気がしないか。

#### 松尾教育委員)

- ・教育委員の立場で言うと、児童館は厚生労働省の管轄で、学校は文科省ということで、なかなか上手に折り合わないんだなというのは実感するが、週1回でもいいから地域の人が出てきて、例えば児童館のクラブ活動の一環でお勉強クラブみたいのがあるのもいいのかな。地域の方が出てこれるような体制づくりを何とか地域の中から盛り上げていけないものなのかな。児童館は地域の力がないとやっていけないので、地域の間がどれだけお手伝いできるのか、どうやって引っ張り出すのか、そこが大事なところ。
- ・保護者の立場からすると、児童館で勉強してくれるとすごくありがたい。帰って御飯食べてそれから勉強するよりは、学校から家に帰るまでの長い間、その時間で、勉強してくれたらすごくありがたいと思う。
- ・家庭教育をしていかないと学校に任せきりでは学力向上しないし、児童館にただ預けっぱなしでは、成長するに当たって、いいものはできていかないんじゃないか。

#### 種村教育委員)

- ・児童館は、そんなに詳しくないが、学力向上ということでは、本来、勉強するところでやった方がいい。むしろ児童館はいろんなその世代の人が来るので、人間の交流とか、30歳40歳くらい年が違う人と話すことによって社会勉強もできる。いろんな意味で学習する機会があって、子どもは成長していくと思う。普段、同じ世代の人間とばかりいるので、世界は広まっていない。社会性を広めるという意味で、児童館はすごくいいと思うので、もっと広めていったらいいのではないか。勉強の場ではないよって限られた形ではなくて、もっと自由な雰囲気を持っていくことが、子どもたちにとってはいいのではないか。

#### 山口教育委員)

- ・児童館は、1年生から6年生まで混在しているから、学習活動でも、上級生が下級生に関わることは可能じゃないか。異学年集団の機能を生かすのも、一つの工夫として、あっていい。

#### 小出教育委員)

- ・児童館で放課後、子どもたちが宿題とかの勉強する時間は、実質どのくらい取られているのか。

#### こども保健部長)

- ・時間を設定しているところは、30分とか45分で、その他の館でも自主的に宿題をやっている子たちはケースバイケース。

#### 小出教育委員)

- ・児童館は、けん玉やこま回し、お手玉など、今の子どもたちはできないような、しないような遊びとかを今までもやっていて、多分、児童館に行かせていない親も、させたい遊びだと思う。そういうのを日常からやっているっていうのは、すごくいいと思って見ていたので、その活動を大切にしてもらいたいな、って思う反面、勉強時間を子どもに任せて10分とか20分だとちょっと短いので、もうちょっと勉強時間をとってあげたほうが、いいのかなと聞いていて思った。

#### 山口教育委員)

- ・同じ宿題でも終わるまでの時間は個人差があるし、同じ宿題を出された同学年同士でわかっている子がわからない子に教えるというのも、学び合いは深まっていくのかな。

#### こども保健部長)

- ・児童館では、同じような学年の子たちが並んでやっている方が多い。学年によって下校してくる時間も違うので、時間設定する難しさも出てくる。時間設定には、いろんな工夫があると思う。ボランティアの関係や異学年でのアドバイスなども参考になる。
- ・児童館にもよるが、施設的に余裕がないところもあるので、その辺も考えていく必要がある。

#### 山口教育委員)

- ・児童館で働いている方々にノルマとして、こういうものをどんどん課していくっていうのは、難しさがあるのか。何かいい方法ないのかなというのを模索していただければ。

#### 蝦名市長)

- ・5時くらいから子どもが増えてくるときに、地域のボランティアの方々がいないということであれば、児童厚生員の仕事になってくる。例えば数か所でも5時から週3回ぐらいでやっていこう、などの方法は検討できないのか。

#### 教育長)

- ・社会のニーズは、学童保育を遅くまで面倒を見てほしいとなっているが、低学年だったら迎えに行つて、家に帰って、お風呂や食事を負えたら、もう寝る時間で勉強する時間がない。
- ・でも社会は、8時とか9時までのニーズが増えていっているが、これと放課後学習との兼ね合いをどこで落としていくのかっていうのは、難しい問題がある。

#### こども保健部長)

- ・全部の館ではできないが時間設定や関わってくれる方、児童館のつながり、また運営協議会で、なに

かできないか、アイデアを出してもらうことが必要。また、延長して欲しいという希望も考えなくてはならない。

- ・教えてくれる人の確保や時間設定など、いろんな意見をもらった中で、検討していくということは可能。

#### 蝦名市長)

- ・親の都合に合わせた中でお預かりしている時間の中でやっていくという考え方じゃなくて、21館ある児童館をどうやって活用していくのか。例えば5時から6時までが勉強時間となったら、6時に迎えに来ようとなるだろう。児童館をどう活用し、少しでも教育とか学力とかに使えるような形にしていこうという考えになるべき。

#### 種村教育委員)

- ・塾では、中学生が多いが夕飯は自分でコンビニで買って、休み時間に食べて、8時や9時ころに親が迎えに来る。完全に子どもに合わせたライフスタイルになっている。勉強に関しては親は真面目に取り組むので、6時って設定すれば迎えに行くと思う。

#### 蝦名市長)

- ・今の児童館の中でどんな形でできるのか。21館全部じゃなくても、いくつかのところで、こういう形の中でやっていくとか。課題は次々と出てくるが、その考え方のまとめをどうするのか。

#### 松尾教育委員)

- ・モデルケースみたいなのがあればいいかもしれない。

#### 蝦名市長)

- ・4つ5つあったらね、進んでいく。

#### こども保健部長)

- ・すぐにできるものとできないものがあり、相手がいるので、意見の中で、どんなものができるのか集まる場面で話しをしていきたい。

#### 蝦名市長)

- ・市としての児童館の基本的な考え方を決めていくべき。プランとしてどういうものを考えていくのかを示すのが一番先だ。

#### 松尾教育委員)

- ・教育委員会のバックアップが必要。

#### 教育長)

- ・総合教育会議がないと、教育委員会が児童館をテーマに議論することってということがない。そういう意味で大事な会議である。

#### 山口教育委員)

- ・純然たる文科省で言うところの総合教育会議だったら、首長さんを交えての教育委員会内部での話になるが、こうしてこども保健部が関わって児童館に対してのアプローチが、この場で話し合えるっていうのは釧路市の総合教育会議は素晴らしい。

#### 総合政策部長)

- ・児童館の基本的考え方を示すという検討をするということで、今日の第一弾の話とする。

#### 山口教育委員)

- ・参事に2つリクエストをしたい。前に経年変化を重視していくという話を「 $y = a x + b$ 」という一次関数の一般式を用いて説明してくれたのが非常にわかりやすかった。「 $y = a x + b$ 」のbというのが学校の現状。-5から始まる学校もあるし、+5から始まる学校もある。一次関数のグラフの接点がどこからスタートするか、比例定数のaを絶対マイナスにしない、というのが経年変化なんだということなので、ぜひ実現できるようにしてもらいたい。
- ・2つ目、幼稚園、保育園の園長も参加した意見交換会で、子どもたちに寄り添うのと同時にしっかり対応しなければならない保護者が一部いるという話になった。資料をもらっても、読もうとしない、子どもたちにきちっと指導しない、一部の保護者には保育園や幼稚園と同じように学校も寄り添ってやらなければならないことがあるんじゃないかなという気がする。保護者にとっても、一方的な説明終わらず、より親切な対応が求められるような気がする。ぜひ配慮していただきたい。

#### 教育指導参事)

- ・配慮と言うか、いわゆる学びのセーフティネットっていう形で小中高の間に一人も取り落とさないという手立ては、これからもっともっととっていかなくてはいけない。それが保護者に寄り添うという形で、子ども一人一人のフォローをしていかなくてはいけないと考えている。学力だけで追っていくとぽろぽろ落ちてくる子どもが出てくるのが怖いので、下でフォローするシステムを作らなくてはいけないので、バランスをとりながら、やっていきたい。

#### 山口教育委員)

- ・保護者がギャップを感じないように、よろしく願いたい。

#### 蝦名市長)

- ・幼稚園とか保育園は、親も若い世代だが子どもが中学生になったら親もいい大人になっている。まだ寄り添いが必要か。

#### 小出教育委員)

- ・中学生になると子どもがある程度成長したとみなして、あまり介入しようとする親も増える。子どももお便りを出さなくなって、それで連絡が取れてないというのもあると思う。

#### 教育指導参事)

- ・子どもに対する支援ではなくて、いろんな意味で支援の必要な保護者は必ずいる。今も、これからもっと必要になってくる。

#### 総括指導主事)

- ・例えば、子どもに支援が必要となった場合には、子どもだけじゃなくて家庭全体がサポートが必要だとすれば、さまざまな機関と連携をとって、それぞれ役割分担しながら、取り組んでいるところ。

#### 松尾教育委員)

- ・主任児童委員で学校訪問で、いろんなケースを聞くと、不登校の原因は家庭環境の方が多い。学校だけじゃなくて、福祉の部分でもバックアップしていかなくてはいけないこともたくさんある。

**山口教育委員)**

- ・最近、困ったときに、これ誰やるの？学校でしょ、っていう風潮になってきている。

**教育長)**

- ・そこで学校が見放したら誰も対応しない世の中になっているのも現実。

**山口教育委員)**

- ・親の世話をするのは学校ではないが、子どものためにどうしなければならないのか、子どもの親にどういうアプローチが必要なのか、ということでどんどん広がっていきつつというのが現状。

**小出教育委員)**

- ・入学したときに子どもだけじゃなくて親にもギャップがあるという話の関連で、小学校に入学したらすごい量のプリントが急にいっぱい来て、親も結構大変。
- ・ノートも全部学校で決まっていて、うちの学校ではこれを指定するというのもばらばらに来る。コミュニティスクールの委員をやっている学校で、プリントを小さくして、1枚の大きいプリントに載せて1枚にしたのを今年度から配ったっていうのがあって、それはすごくいいなと思った。いちいちプリント探さなくていいっていうのと、なにかあったらそれを出して見ればすぐわかるっていうので、それが釧路市のスタンダードになっていけばいいと思った。

**教育指導参事)**

- ・それは本州のある学校でやっている取り組みで、ここ3～4年の間に市内の学校にも広がっており、ほとんどの学校でスタンダードとして整備されている。

**山口教育委員)**

- ・それも一つの保護者に寄り添うということ。

**教育長)**

- ・ずっと、そのたかさんのおたよりをメールにできないかなと言っているんだけど、紙じゃなくて。紙ベースではなくて、スマホにデータを送れないかと。

**蝦名市長)**

- ・学校に入ったときに、学校保護者のメールアドレスは聞くのか。

**教育指導参事)**

- ・安心安全メールというのに登録している学校は、保護者がメールを打って、入ってもらう。ほとんどの学校で緊急時の連絡は安心安全メールで流している。

**蝦名市長)**

- ・ほとんど全員だよ。

**総括指導主事)**

- ・100%まではいっていないと聞いている。

**蝦名市長)**

- ・なにかというときには、学校でたとえば1年生とか、4年生の親とかメールを出せるということ。



**総括指導主事)**

- ・スタートが安心安全メールということなので、例えば、休校の連絡や不審者が出たときの連絡が中心になって、それ以外のメールというのは、私も保護者だが、来たことはないかなという状態。

**蝦名市長)**

- ・登録するときに、これでいろんな連絡をしますよということを、先に言えば、できるんじゃないか？登録は毎年するの？

**松本総括指導主事)**

- ・毎年、年度初めに学校から登録願いのおたよりを出して、保護者が登録する。

**蝦名市長)**

- ・学校の連絡のために任意じゃなく学校にも教えてくださいと言うことはできないの？

**山口教育委員)**

- ・説明の仕方として、こういうことのためにできれば登録してほしいという投げかけ方をして、拒否されたら最終的には任意になるが、学校からのアプローチの仕方ってというのは、もう一工夫できるんじゃないか。

**教育指導参事)**

- ・電話番号と個人情報をプリントで出すことができず、昔の連絡網が使えなくなってきている時代なのでという理由をつけて、ぜひ、登録してくださいとアプローチはしているので、ほぼ90何%の登録になっている。
- ・課題は、緊急事が一度に全市で起きるとメールがパンクする。

**山口教育委員)**

- ・双方向ではなく学校対1軒1軒というつながりしかないよね。

**松本総括指導主事)**

- ・はい。

**松尾教育委員)**

- ・一方通行ならできそうだが。

**蝦名市長)**

- ・その認識が分かり合っていないといけない。

**教育長)**

- ・私のイメージは、例えば学力向上に向けた家庭での取り組みみたいな情報までそれを使って流せないか。でもスマホだったら見るだろうと思っているが、そもそもそういう目的で登録するという仕組みではないから、そういう情報も何で来るのってなってしまうという懸念がある。

**蝦名市長)**

- ・初めにそれもやると言えばいいのではないか。ICTと言っているのだから、こういうことは必要だ。

#### 山口教育委員)

- ・今までよりもう一步前に進めるための手だてを、考えてくれそうな雰囲気だ。

#### 松本総括指導主事)

- ・安心安全メールを学校がどういう案内をしているかということ踏まえて、確認しながら、さまざまな案内が出せる、反対に出すことによって嫌がる保護者がいるだとかってという意見も聞いたことがあるので、その辺も精査しながら、どういう形がいいか検討していかなきゃいけないのかなと思っている。

#### 蝦名市長)

- ・安心安全メールはそのままがいい。別個に登録してもらって、何割が登録して、どれだけが登録していないという事実が分かればいい。
- ・学習塾ならそういうの、やっているんじゃないか。

#### 種村教育委員)

- ・小学生用に帰るときに、親に知らせるような形をとっており、喜ばれている。

#### 山口教育委員)

- ・教育委員会から連絡を家庭にお願いしますということを全ての学校に流して、それを受けた場合、学校は転送という形で各家庭に回す方法は取れないか。

#### 学校教育部長)

- ・その方が、今のシステムに合っている。

#### 総合政策部長)

- ・本日、二つのテーマにわたって議論いただいたが、一定の方向性が出てきているのではないか。
- ・次の議題2、令和元年度釧路市教育総合会議の意見交換会、これからの予定部分について事務局より説明する。

#### 都市経営課長)

- ・今年度の意見交換会は成長の段階に応じた切れ目のない教育の取り組み、これの後半戦として、義務教育を終了してからの高等教育機関そして就労へつながる取り組みについて、開催したいと考えている。
- ・平成29年度は、総合教育会議、意見交換会を経て、釧路市教育大綱を策定した。その後、大綱に基づく取り組みを進めていくために、昨年10月、教育大綱の基本的考え方の一つ、「成長の段階に応じた切れ目のない教育」を進めるための取り組みをテーマとして意見交換会を開催した。意見交換会では就学前からの子どもや家庭の関わりなどについて、委員の皆様初め、関係機関の方々からたくさんのご意見をいただいた。本日は意見交換会のフォローアップという形で、総合教育会議を開催。
- ・次回の意見交換会は、来年度の総合教育会議の中で、フォローアップをしながら、切れ目のない教育の推進について、全体を通しての振り返り、まとめをしていきたい。
- ・なお、本年度、人口減少社会に立ち向かうための目標、施策を定めた「まちひとしごと創生総合戦略」の第2期計画の策定を予定している。総合教育会議あるいは意見交換会での意見は、策定作業の中で参考とさせていただく。開催時期については、今後、調整させていただくので、よろしく願いしたい。

**総合政策部長)**

- ・平成29年度の「釧路市教育大綱」作成以来、教育大綱にあるところの、目標の一つ「成長の段階に応じた切れ目のない教育を推進する」というテーマで、取り組みを進めてきているところ。今年の秋口には、意見交換会の2回目において、中学校から、高等教育機関までに至る範囲での意見交換会を行うということで、本日は今の取り組みがどの立ち位置に立つのか、改めてロードマップとして、この議論の経過、またこれからということを委員の皆様を示したところである。質問等あれば受けたい。

**教育長)**

- ・長野県飯田市長が、小学校、中学校の段階では割と積極的にふるさと教育について、地元についての教育をやるが、高校になったとたんに逆にふるさとを捨てる教育をし始める。そして、東京へ進学をしたり、東京で働いたりという仕掛けになる。市町村教育委員会は道立高校にストレートにふるさと教育という視点で入っていけないという話をされており、その通りだなと思った。
- ・その市長は社会教育というツールを使いながら、地域の方々の力も借りて、高校の中でふるさと教育を展開した中で、あるアンケートで高校生が「この飯田というまちは、僕たちがやりたいことを実現できるまちだ」と書いていたんだそう。市長さんが鳥肌が立つくらい感動したと言っていた。
- ・今後、釧路で働く、釧路に戻ってきてもらう、このイメージを高校とどう共有できるかというのが課題だなと思っていて、次の意見交換会、いいテーマだなと思って聞いていた。

**総合政策部長)**

- ・意見交換会については改めて案内させていただく。
- ・それでは、これで令和元年度釧路市総合教育会議を終了する。

(了)